

---

資 料

---

## 世界と日本のムスリム人口 2018年

店田 廣文

### Estimate of Muslim Population in the World and Japan, 2018

Hirofumi Tanada

(Faculty of Human Sciences, Waseda University)

(Received : May 13, 2019 ; Accepted : August 1, 2019)

#### Abstract

In the 21<sup>st</sup> century, the Islamic societies have played important roles in the political, economic and socio-cultural fields in the World. In this paper, I will show the present status of Muslim population in the World and Japan (as of 2017 & 2018). The author published the estimated Muslim population in the world for the year 2011 before, so the estimated Muslim population described hereafter will be the revised estimate, demonstrating the current situation of Islamic societies in 2017 & 2018 in terms of population. Regarding the Muslim population in Japan at the end of June 2018, the estimated population is about 200 thousands according to the estimate based on the “Statistics on the Foreigners Registered in Japan” and other materials.

**Key Words** : Muslim, Population, Estimate, World, Japan

#### 序

日本社会とイスラム社会との本格的な交流は、幕末から明治初期の頃にはじまった。最初の日本人・イスラム教徒（ムスリム）が誕生（入信）したのは、19世紀末のことであり、この頃にはインド系ムスリム商人が、神戸などに居住していた。それから一世紀以上が経過し、2010年末には日本に居住しているムスリム人口は、10万を超える規模にまで増加した<sup>1</sup>。その後も増加が続き、筆者の推計によれば、2016年末時点で約17万に達した。人口の増加に呼応するように、国内のイスラム礼拝施設（モスク）も増加

している。1980年代はじめには4箇所に過ぎなかったが、現在、モスクの数は100を越えている。一方、世界のムスリム人口は、1900年には約2億、世界人口の12%であったが、20世紀後半からは世界人口の増加率を超える勢いで増加し、2013年現在、16億(世界人口の22%)に達している<sup>2</sup>。

本稿では、国の内外におけるイスラムへの関心の高まりをうけて、先に発表した「世界と日本のムスリム人口 2011年」<sup>3</sup>に掲載したムスリム人口推計を更新して、2017年の世界のムスリム人口と2018年における日本のムスリム人口に関する推計データを参

考資料として提示することを目的とする。巷間では、2025年のムスリム人口が「世界人口の30%」になるというサミュエル・ハンチントンの『文明の衝突』に述べられた推計がよく引用されてきたが<sup>4</sup>、最近では、様々な統計資料や研究をベースにして、より実状に近いと思われる人口推計の試みが行われている<sup>5</sup>。日本国内においても、ムスリム人口に対する社会的関心が高いこと、また筆者による2011年の人口推計から、既に5年以上が経過して大きな変化が考えられることから、新たに推計を更新した改訂版を作成することとした。

世界のムスリム人口推計については、2011年の推計と同じく、各国のムスリム人口比率のデータを収集し、国連の「世界人口推計2017年」による各国人口を掛け合わせて、国別のムスリム人口を算出する推計方法を採用した。日本のムスリム人口についても、前稿と同様に、国籍別の在留外国人人口に各国のムスリム人口比率を掛け合わせて、国籍別の滞日ムスリム人口を算出する方法で推計をおこなう<sup>6</sup>。今回使用する主たる資料は、法務省のウェブページから利用可能な「在留外国人統計 2018年6月末」の第1表に記載されている国籍別・在留資格別の在留外国人人数である。これを利用して日本に住んでいる外国人ムスリムおよび日本人ムスリムの人口について推計した<sup>7</sup>。

世界のムスリム人口の増加率は、後出の表1.にあるように、2011年時点で1.78%と世界人口増加率の1.18%を大きく上回っている。近年の中東における地域間紛争の激化、欧州地域における移民・難民の流入問題やマイノリティとしてのムスリム人口の社会統合に関わる問題など国際・国内政治の諸課題に加えて、イスラム社会の経済発展とイスラム金融の展開、ムスリム向けのハラール(イスラム法に適合することを意味する)商品市場の成長と消費人口としてのムスリム中間層の増加など世界経済の領域においても<sup>8</sup>、イスラム社会の重要性がますます大きくなっており、世界各地のムスリム人口の推移と現状を改めて確認することが必要であろう。

他方、はじめに述べたように、日本のムスリム人口やモスクは増加を続けており、日本におけるイスラムの存在感はますます高まっている。現段階では、日本におけるムスリム人口の規模は全人口の0.2%程度と小さく、マイノリティの中のマイノリティで

あるが、日本社会の多文化化という変化を見据えて、ムスリム人口の動向と現状を把握する事が必要であろう。2019年4月からは新たな入管政策の導入により外国人労働者の増加が予想されており、地方自治体を主体とする多文化共生施策の推進が課題となっている。日本社会においては、とりわけ異質な文化や宗教を有するマイノリティとして対応されることが多いムスリム人口の実態を把握し、基礎的データを広く社会全体に提供しておくことは、今後の日本における社会統合政策にとって不可欠と考えられる<sup>9</sup>。

本稿では人口推計のデータを資料として提示することを主たる目的としており、推計結果の内容についての解説やムスリム人口と社会変動に関する言及などは最低限としたことをお断りしたい。前回の推計から6~7年が経過しており、後述するように世界のムスリム人口は大きく増加し、日本のムスリム人口についても、2倍近くに増加している。本稿の最後では、世界と日本のムスリム人口に関する将来推計も取り上げて紹介し、ムスリム人口の今後についても述べておきたい。

なお、本稿執筆時点では、2018年12月末現在の「在留外国人統計」データが未公表のため、今回は2018年6月末現在の統計を利用していることを付言しておきたい。

## 1. 世界のムスリム人口

世界の宗教人口推計によれば、1900年のムスリム人口は1億9994万人(世界人口の12.3%)であったが、1950年には3億1570万人(13.6%)とわずかながら比率は上昇した<sup>10</sup>。その後、世界人口の増加率をしのぐペースでムスリム人口は急増し、筆者の推計によると、2000年のムスリム人口は12億7603万人(21.1%)、そして、2017年現在の世界のムスリム人口は、18億1396万人と世界人口の24.0%である(表1)。

ムスリム人口について国勢調査等によって把握できる国はカナダやイギリスなど少数にとどまっている。また、イスラムには信者数を把握するシステムも存在しないため、ムスリム人口については、民族構成、モスク等の数、外国人人口統計、社会調査など種々の間接的なデータによって、各国のムスリム人口把握が行われてきた。

本稿では、世界のムスリム人口を把握するために、

表1. 世界のムスリム人口推計 (1900年～2017年)

	1900年*	1950年**	2000年***	2011年****	2017年
世界のムスリム人口(千人)	199,940	315,700	1,276,030	1,548,969	1,813,962
世界人口(千人)	1,619,626	2,525,779	6,127,700	6,974,036	7,550,262
世界人口にしめる割合(%)	12.3	13.6	21.1	22.2	24
ムスリム人口年増加率(%)	---	0.92	2.83	1.78	2.67
世界人口年増加率(%)	---	0.89	1.79	1.18	1.33

資料: \* *World Christian Encyclopedia*, 2nd ed. 2001

\* \* *1951 Britannica Book of the Year*, 1951

\*\*\*拙稿「イスラーム世界の将来人口」『統計』53巻5号、2002年。

\*\*\*\*拙稿「世界と日本のムスリム人口 2011年」(註3.参照)

U.N., *The Determinants and Consequences of Population Trends*, Vol.1, 1973

U.N., *World Population Prospects. The 2017 Revision Key Findings and Advance Tables*, 2017. (web ver.)

後出の表3. に注記した4つの資料等によりながら、まず各国人口に占めるムスリム人口比率を確定したうえで、国連による「世界人口推計2017年」を利用して、2017年時点のムスリム人口総数を算出するという手順を取った。世界の200カ国以上の国・地域にムスリム人口は存在するといわれているが、表3. に掲示した国・地域以外のムスリム人口は、本稿での推計に含まれない。しかし、それらの国・地域のムスリム人口はきわめて少なく、全体の人口動向は各表に示されているとおりである。

まず2017年の世界の地域別ムスリム人口の分布割合を示した表2. を見ると、2000年当時の推計人口と大きな変化はないと見なすことができる。アジア、アフリカ、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパの5地域でみると、アジアが全体の68%、アフリカが29%を占めており、その他の3地域を合わせても、3%強であり、2000年と比べると、アフリカの比率が僅かながら上昇しているが、大勢に変化はない。

2017年の推計においてもムスリム人口の多くが、アジア、アフリカの発展途上地域に在住しているものの、近年における欧米の先進諸国におけるムスリム人口の増加は注目すべき点である。2000年と2017年を比べると、ヨーロッパのムスリム人口が世界に占める割合は、2.4%から2.5%へと若干上昇している。ムスリムの存在感の高まりは、「テロリズム」や「IS」との関連で取りざたされることが多いが、多文化主義や社会統合という将来の世界各国の社会システムのあり方を構想する上でも考慮しなければならない事柄である。

表3.にあるように、ヨーロッパのOECD諸国のほとんどではムスリム人口が全人口の1%以上となっており、絶対数もフランス280万人、ドイツ350万人、イギリス290万人、スペイン・イタリアは各々120万人、オランダも100万人と膨大なムスリム人口を抱えている。その他のOECD諸国も数十万人程度の人口を抱えており、合計すると1500万人程度の

表2. 世界のムスリム人口・地域別 (2017年)

地域	ムスリム人口(千人)	対全ムスリム人口比
アフリカ	533,102	29.4%
アジア	1,226,618	67.6%
ヨーロッパ	45,741	2.5%
ラテン・アメリカ	1,491	0.1%
北アメリカ	6,363	0.4%
オセアニア	647	0.0%
合計	1,813,962	100.0%

資料:表3. の各国別人口を合計。

表3. 世界のムスリム人口/地域別・各国別、2017年

国名	地域	人口 (千人)	ムスリム比率 (%)	ムスリム人口 (千人)
ソマリア	東アフリカ	14,743	99.0	14,596
コモロ		814	98.4	801
ジブチ		957	94.1	901
マイヨット		253	96.5	244
エリトリア		5,069	50.0	2,535
タンザニア		57,310	35.0	20,059
エチオピア		104,957	34.1	35,790
モザンビーク		29,669	17.9	5,311
マラウイ		18,622	20.0	3,724
モーリシャス		1,265	17.3	219
ウガンダ		42,863	12.1	5,186
マダガスカル		25,571	2.0	511
レユニオン		877	4.2	37
ケニア		49,700	11.2	5,566
ブルンジ		10,864	3.5	380
セイシェル		95	1.6	2
ルワンダ		12,208	2.0	244
ザンビア(a)		17,094	0.4	68
ジンバブエ(a)		16,350	0.9	147
チャド		中部アフリカ	14,900	57.0
カメルーン	24,054		20.9	5,027
中央アフリカ	4,659		10.0	466
コンゴ共和国	5,261		1.6	84
コンゴ民主共和国	81,340		10.0	8,134
赤道ギニア	1,268		4.1	52
ガボン	2,025		6.4	130
西サハラ(b)	北アフリカ	553	100.0	553
アルジェリア		41,318	99.7	41,194
モロッコ		35,740	99.0	35,383
チュニジア		11,532	99.0	11,417
リビア		6,375	96.6	6,158
エジプト		97,553	90.0	87,798
スーダン		40,533	68.4	27,725
南アフリカ	南部アフリカ	56,717	2.5	1,418
アンゴラ		29,784	0.7	208
ボツワナ		2,292	0.3	7
スワジランド		1,367	1.0	14
モーリタニア	西アフリカ	4,420	99.1	4,380
ガンビア		2,101	90.0	1,891
セネガル		15,851	95.4	15,122
マリ		18,542	94.8	17,578
ニジェール		21,477	90.0	19,329
ギニア		12,717	86.7	11,026
シエラレオネ		7,557	65.0	4,912
ブルキナファソ		19,193	61.6	11,823
ナイジェリア		190,886	50.5	96,397
コートジボアール		24,295	40.2	9,767
カーボベルデ		546	1.8	10
ギニア・ビサオ		1,861	45.1	839
リベリア		4,732	12.2	577
トーゴ		7,798	13.7	1,068
ガーナ		28,834	17.6	5,075
ベニン		11,176	24.4	2,727

モンゴル	東アジア	3,076	3.0	92
中国		1,409,517	1.8	25,371
香港		7,365	1.5	110
台湾(c)		23,626	0.6	142
日本(a)		127,484	0.1	127
モルジブ	南部中央アジア	436	100.0	436
アフガニスタン		35,530	99.0	35,175
イラン		81,163	99.3	80,595
パキスタン		197,016	96.4	189,923
バングラデシュ		164,670	89.1	146,721
ウズベキスタン		31,911	76.2	24,316
トルクメニスタン		5,758	87.2	5,021
タジキスタン		8,921	84.0	7,494
キルギスタン		6,045	60.8	3,675
カザフスタン		18,204	70.2	12,779
インド		1,339,180	14.2	190,164
スリランカ		20,877	9.7	2,025
ネパール		29,305	4.4	1,289
インドネシア		東南アジア	263,991	87.2
ブルネイ	429		78.8	338
マレーシア	31,624		61.3	19,386
シンガポール	5,709		14.9	851
フィリピン	104,918		5.1	5,351
タイ	69,083		9.0	6,217
ミャンマー	53,371		4.3	2,295
カンボジア	16,005		4.0	640
ベトナム(a)	95,541		0.2	191
東チモール(a)	1,296		3.8	49
バーレーン	西アジア	1,493	70.0	1,045
イエメン		28,250	100.0	28,250
トルコ		80,745	97.5	78,726
パレスチナ(a)		4,921	98.0	4,823
イラク		38,275	96.0	36,744
サウジアラビア		32,938	94.0	30,962
ヨルダン		9,702	97.2	9,430
アラブ首長国連邦		9,400	62.0	5,828
カタール		2,639	83.0	2,190
アゼルバイジャン		9,828	96.0	9,435
オマーン		4,636	85.9	3,982
シリア		18,270	85.0	15,530
クウェート		4,137	76.7	3,173
レバノン		6,082	54.0	3,284
キプロス		1,180	1.8	21
イスラエル		8,322	17.5	1,456
グルジア	3,912	19.5	763	
マケドニア	東ヨーロッパ	2,083	32.0	667
ブルガリア		7,085	10.0	709
ロシア		143,990	16.0	23,038
ウクライナ		44,223	1.0	442
モルドバ		4,051	5.5	223
ルーマニア(a)		19,679	0.3	59
スウェーデン	北ヨーロッパ	9,911	4.0	396
イギリス		66,182	4.4	2,912
デンマーク		5,734	4.0	229
ノルウェー		5,305	2.3	122
フィンランド(a)		5,523	0.5	28

アルバニア		2,930	58.8	1,723
ボスニア・ヘルツェゴビナ		3,507	45.0	1,578
セルビア・(モンテネグロ)		8,791	3.1	273
モンテネグロ		629	19.1	120
コソボ(d)		1,782	95.6	1,704
ジブラルタル(a)	南ヨーロッパ	35	4.0	1
クロアチア		4,189	1.5	63
ギリシア		11,160	5.0	558
イタリア		59,360	2.0	1,187
スペイン		46,354	2.5	1,159
スロベニア		2,080	2.4	50
マルタ		431	0.7	3
フランス		64,980	4.3	2,794
オランダ(a)		17,036	5.7	971
リヒテンシュタイン		38	4.1	2
ベルギー	西ヨーロッパ	11,429	4.0	457
スイス		8,476	4.3	364
オーストリア		8,735	4.2	367
ドイツ		82,114	4.3	3,531
ルクセンブルグ		583	2.0	12
アメリカ合衆国	北アメリカ	324,459	1.6	5,191
カナダ		36,624	3.2	1,172
スリナム	南アメリカ	563	13.9	78
ガイアナ		778	7.2	56
ブラジル(a)		209,288	0.1	209
アルゼンチン		44,271	1.5	664
トリニダード・トバゴ		1,369	4.9	67
パナマ(a)	中米・カリブ海	4,099	0.7	29
メキシコ(c)		129,163	0.3	387
フィジー		906	6.3	57
ニュージーランド(b)	オセアニア	4,706	1.1	52
オーストラリア		24,451	2.2	538
合計	世界人口	7,550,262	ムスリム人口	1,813,962

資料：人口/UN., *World Population Prospects The 2017 Revision Key Findings & Advance Tables*, 2017(web ver.)  
 ムスリム比率/主として、Encyclopedia Britannica, *2017 Book of the Year*, 2017. を利用。その他は、下記に注記。  
 CIA, *World Factbook 2019 (web ver.)* および Richard P. Weekes, *Muslim Peoples: A World Ethnographic Survey*, 2nd ed.1984 を補助的に使用した。

(注) ムスリム人口/各国人口×各国のムスリム比率で算出した。

なお、太字の国名は、イスラム協力機構加盟国。ただし、中央アフリカ、タイ、ロシア  
 ボスニア・ヘルツェゴビナは、オブザーバー。パレスチナも加盟国である。

(a) Pew Research Center, *World Muslim Population by Country: Interactive Data Table* (Nov.17,2017)

(b) CIA, *The World Factbook 2019*(web ver.) (Date of Ref. 2019/3/18)。

(c) Encyclopedia Britannica, <http://www.britannica.com>(as of 2011)

(d) Encyclopedia Britannica, *2017 Book of the Year*, 2017. 人口データも参照。

ムスリム人口となる。一方、北米のアメリカ、カナダは合わせて640万人、人口に占める比率は各々2～3%程度である。オセアニアのオーストラリア、ニュージーランドも人口の1%を超えており、合わせて60万人程度のムスリム人口を擁している。これら欧米のOECD諸国を合わせると、ムスリム人口は、2200万人程度となっている。

## 2. 日本のムスリム人口<sup>11</sup>

本稿の推計では、法務省が公開している「在留外国人統計」第1表の在留外国人数を利用し、それぞれの国籍の人数に各国別のムスリム人口比率を掛け合わせた人口をまず算出した。更に在留資格の「日本人の配偶者等（日本人の配偶者または子）」および「永住者」の数が示されている場合には、同様のムスリム人口比率を利用して、「日本人の配偶者等

世界と日本のムスリム人口 2018年

表4. 日本の外国人ムスリム人口推計/2018年6月末現在

国名	在留外国人数	国別ムスリム比率	外国人ムスリム人口	日本人の配偶者等の在留外国人	日本人の配偶者等の外国人ムスリム	永住者の在留外国人	永住者の外国人ムスリム
タンザニア	452	35.0	158	66	23	124	43
エチオピア	455	34.1	155	33	11	88	30
ウガンダ	629	12.1	76	102	12	121	15
ケニア	788	11.2	88	61	7	168	19
カメルーン	659	20.9	138	91	19	91	19
アルジェリア	229	99.7	228	21	21	59	59
モロッコ	601	99.0	595	140	139	197	195
チュニジア	583	99.0	577	78	77	104	103
リビア	70	96.6	68	4	4	9	9
エジプト	1,843	90.0	1,659	107	96	258	232
スーダン	247	68.4	169	16	11	53	36
ガンビア	75	90.0	68	10	9	18	16
セネガル	688	95.4	656	119	114	159	152
マリ	187	94.8	177	25	24	78	74
ギニア	424	86.7	368	60	52	166	144
ブルキナファソ	101	61.6	62	11	7	14	9
ナイジェリア	2,964	50.5	1,497	453	229	1,566	791
コートジボアール	147	40.2	59	12	5	36	14
ガーナ	2,305	17.6	406	234	41	1,134	200
アフガニスタン	3,039	99.0	3,009	17	17	216	214
イラン	4,069	99.3	4,041	291	289	2,609	2,591
パキスタン	15,583	96.4	15,022	668	644	4,901	4,725
バングラデシュ	14,948	89.1	13,319	388	346	3,258	2,903
ウズベキスタン	3,584	76.2	2,731	73	56	211	161
タジキスタン	163	84.0	137	6	5	2	2
キルギスタン	494	60.8	300	22	13	28	17
カザフスタン	387	70.2	272	25	18	45	32
インド	33,271	14.2	4,724	428	61	5,844	830
スリランカ	25,074	9.7	2,432	673	65	3,012	292
ネパール	85,321	4.4	3,754	774	34	4,284	188
インドネシア	51,881	87.2	45,240	2033	1,773	6,313	5,505
マレーシア	10,003	61.3	6,132	535	328	2,730	1,673
シンガポール	2,974	14.9	443	344	51	928	138
フィリピン	266,803	5.1	13,607	26538	1,353	128,446	6,551
タイ	51,003	9.0	4,590	7233	651	19,899	1,791
ミャンマー	24,471	4.3	1,052	412	18	2,041	88
カンボジア	11,210	4.0	448	234	9	1,578	63
ベトナム	291,494	0.2	583	3519	7	15,374	31
イエメン	94	100.0	94	4	4	4	4
トルコ	5,393	97.5	5,258	619	604	989	964
パレスチナ	70	98.0	69	7	7	5	5
イラク	140	96.0	134	13	12	8	8
サウジアラビア	673	94.0	633	16	15	7	7
ヨルダン	179	97.2	174	21	20	47	46
アラブ首長国連邦	87	62.0	54	1	1	0	0
アゼルバイジャン	112	96.0	108	8	8	11	11
シリア	678	85.0	576	28	24	57	48
レバノン	128	54.0	69	16	9	31	17
イスラエル	598	17.5	105	89	16	202	35
外国人ムスリム推計人口の合計	外国人ムスリム人口		日本人配偶者等資格のムスリム人口		永住者資格のムスリム人口		
	主要なイスラム社会	136,314	主要なイスラム社会	7,357	主要なイスラム社会	31,097	
	その他の国々	16,430	その他の国々	887	その他の国々	5,662	
	合計	152,744	合計	8,244	合計	36,759	

資料: 法務省ウェブサイト「在留外国人統計」2018年6月末現在、(2019年3月18日参照)  
上記資料をもとに、筆者推計。

(日本人の配偶者または子)」および「永住者」としてのムスリム人口を算出している。それらの推計結果は、表4. に記載したが、紙幅の関係で、主要なイスラム社会のみ具体的な国名とデータを提示した。この他に、ほぼ同じ時点での「不法残留者」として国籍が公表されているインドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン、タイ、ベトナム、中国、

台湾などの外国人については、同様にムスリム人口比率を利用して、ムスリムの「不法残留者」を推計した(表5.)。なお「在留外国人統計」第1表には、観光客などの短期滞在は含まれていない。

以上の推計結果から、2018年6月末現在で、正規の滞在資格を有する外国人ムスリム、152,744人、内訳として「日本人の配偶者等」資格のムスリム、

表5.「不法残留」の外国人ムスリム人口推計 2018年7月1日現在

国籍	不法残留者数	ムスリム人口推計
中国	9,459	170
台湾	3,748	22
インドネシア	2,724	2,375
マレーシア	1,819	1,115
シンガポール	1,037	155
フィリピン	5,282	269
タイ	6,860	617
ベトナム	8,296	17
合計	---	4,740

資料:法務省ウェブページ「国籍・地域別・男女別 不法残留者数の推移」(2019年3月18日参照)上記資料より、筆者推計。

8,244人、「永住者」資格のムスリム、36,759人である。この他に、「不法残留者」のムスリム、4,740人の存在が推計されることから、日本に住んでいる外国人ムスリムは、合計で157,484人と考えられる。

一方、国内の日本人ムスリムについては、拙稿「日本人ムスリムとは誰のことか」において、2016年末現在の「在留外国人統計」を利用して推計した結果を援用して、日本人ムスリム人口の推計を実施する事とした。

まず2016年末時点の日本人ムスリムの人口推計結果は、以下のようである。詳細は省略するが、年齢別の在留外国人の割合も推計しつつ、「在留外国人統計」にある「日本人の配偶者等」および「永住者」の在留資格を有する在留外国人数を利用した推計によれば、婚姻を契機としてムスリムになった日本人、1万2千、子どもや若者(25歳未満と想定して推計)の日本人ムスリム、2万3千、である。この他、「官報」から得られる帰化者データを利用した推計から、帰化した「日本人ムスリム」が3千、この他、日本ムスリム協会等の資料から推計した、自ら入信した日本人ムスリムが2千である。以上を合計した4万というのが、2016年末時点の日本人ムスリムの推計人口であった。

以上の推計をもとに、2018年6月末現在の日本人ムスリム人口を簡便な方法によって推計する。2018年6月末現在における、「日本人の配偶者等」資格のムスリム、8,244人、「永住者」資格のムスリム、36,759人に対して、2016年末時点においては、前者が7,543人、後者が33,727人である。両者をあわせた変化を見ると、2018年6月末現在、45,003人、2016年末時点、41,270人であり、約1割の増加である。

そこで、2018年6月末現在の日本人ムスリムの推計人口として、それぞれのカテゴリーで約1割の増加と想定して、婚姻を契機としてムスリムになった日本人が、1万3千、子どもや若者の日本人ムスリムが、2万5千、と推計することとした。帰化した「日本人ムスリム」については、1年間のムスリムの帰化者数が2014年以降はほぼ年間180人前後であることから<sup>12</sup>、数百人の増加が想定されるが、微々たる変化として、2016年末時点の3千のままとする。また、新たな入信者についても、数百人規模の増加は想定されるものの微々たる変化として、2千のままとする。以上を合計して、2018年6月現在の日本人ムスリムの推計人口として、4万3千とすることとした。

以上の結果から、2018年6月末現在の日本におけるムスリム人口全体の規模として、外国人ムスリムが15万7千、日本人ムスリムが4万3千となり、日本に住んでいるムスリムの推計人口総数は、約20万である。

### 3. まとめにかえて

2017年現在、およそ18億人のムスリム人口が、将来的にはどのくらいの規模になるであろうか。2030年と2050年のムスリム人口について、国連の「世界人口推計2017年」による世界人口(2030年と2050年の中位推計人口)をベースとして推計してみた。ムスリム人口比率が2017年と同じく24%と仮定すると、2030年と2050年には、世界のムスリム人口は、それぞれ20.5億人と23.5億人になるものと推計される。他方で、表1にあるムスリム人口の年人口増加率2.67%を利用して推計してみると、2030年には25.6



億となり、国連の2030年中位推計人口の29.9%がムスリム人口という結果となる。

一方、2015年にピュー・リサーチ・センターが発表した宗教人口推計<sup>13</sup>によれば、2050年の世界のムスリム人口推計は、27億6千万である。同センターの推計では、2050年の世界人口が約93億人となっており、従って、世界人口に占める割合は、29.7%となっている。

このように推計方法によって、ムスリム人口の規模や世界人口に占める比率は大きく変わってくるので、長期的な推計はなかなか困難である。いずれにしても、上記のようなムスリム人口の世界的な増加が実際にあるのか否かは、その年になるまで誰にもわからない。しかし、これまでのイスラム社会の人口増加動向を考慮すれば、世界におけるムスリム人口の絶対数の着実な増加と、世界人口にしめる割合の上昇そのものは、継続すると考えられることは間違いないであろう。

一方、日本のムスリム人口は、欧米の先進諸国に比べると、人口規模や全人口にしめる割合も低いのが現状であるが、われわれの調査研究から見ても、国内に「ムスリム・コミュニティ」が根付きつつあるのは確かである<sup>14</sup>。政府や地方自治体が「多文化共生」施策を実施していく上でも、日本のムスリム人口の動向を視野に入れていくことが今後必要であろう。因みに前述の2015年のピュー・リサーチ・センターによる、日本のムスリム人口に関する将来推計は、2050年については全人口の0.3%となっており、約31万という滞日ムスリム人口推計が報告されている（この時点の日本人口は、1億778万として推計されている）<sup>15</sup>。本稿における20万という人口推計と比べれば、2015年時点の推計ではあるが、過小な将来推計ということが言えるかも知れない。

将来の日本のムスリム人口の規模については、2019年4月からの「特定技能」資格の導入による外国人労働者受入政策の変更などを考慮すれば、今後も増加の傾向が予想されることから、滞日ムスリム人口の存在感が将来的に高まっていくことは間違いないと考えられる。

付記：本資料は、科学研究費基盤研究（C）課題番号18K01976「滞日ムスリム・コミュニティの地域社会活動と地方自治体の多文化共生政策の課題」（研

究代表者・店田廣文）による研究成果の一部である。

## 註

- 1 店田廣文・岡井宏文「日本のイスラーム：ムスリム・コミュニティの現状と課題」『宗務時報』119号、2015年。店田廣文『日本のモスク：滞日ムスリムの社会的活動』山川出版社、2015年。
- 2 店田廣文「日本人ムスリムとは誰のことか」『社会学年誌』59号、2018年、同「日本におけるイスラーム系宗教団体とコミュニティ」『社会分析』45号、2018年。
- 3 店田廣文「世界と日本のムスリム人口 2011年」『人間科学研究』26巻1号、2013年。
- 4 サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』（鈴木主税訳、集英社、1998年）91頁。Jean Bourgeois-Pichat, “Le nombre des homes: etat et prospective”, Albert Jacquard, *Les Scientifiques Parlent*, Hachette, 1987, p.154, Tableau 7.
- 5 最近よく利用されているムスリム人口推計として、次の資料がある。この資料によれば、2010年のムスリム人口推計は、16億19百万人である。Pew Research Center, *The Future of the Global Muslim Population Projections for 2010-2030*, January 27, 2011. また2015年4月に、2010～2050年の世界の宗教人口に関する推計も公開された。*The Future of World Religions: Population Growth Projections, 2010-2050*, April 2, 2015 (<http://www.pewforum.org/2015/04/02/religious-projections-2010-2050/> 2019年4月6日参照)。
- 6 推計方法の詳細については、店田廣文「世界と日本のムスリム人口 2011年」（前掲）を参照。
- 7 本稿でいう「ムスリム」とは、信仰告白を行って自らイスラムを信仰すると表明している者をいう。イスラムにおいては、礼拝や断食などの信仰実践の程度や有無は問わず、信仰告白を行っていれば、ムスリムとみなすことが原則となっている。『岩波イスラーム辞典』（岩波書店、2002年）「ムスリム」の項参照。
- 8 イスラム経済の生産や消費の増加については、以下の報告書がある。Thomson Reuters, *State of the Global Islamic Economy Report*, 2016.

- 9 いわゆるインバウンドのムスリム旅行者も増加しており、日本政府の観光戦略においてムスリム対応プランなど策定されている。しかし、本稿では短期で日本を訪問するムスリム観光客を対象とはしていないため、推計は実施していない。例えば、「訪日ムスリム旅行者対応のためのアクション・プラン」がある[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kanko\\_vision/pdf/h300522actionplan\\_honbun.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kanko_vision/pdf/h300522actionplan_honbun.pdf) (2019年6月29日参照)。
- 10 *World Christian Encyclopedia*, 2<sup>nd</sup> ed. Oxford University Press, 2001.
- 11 ブリタニカの2011年版には日本のムスリム人口比率の記載があり、同書記載の0.1%を採用すれば、2017年の滞日ムスリム人口は約13万となる。ピュー・リサーチ・センターの2011年発行の推計では、2010年の滞日ムスリム人口は、約18万5千(全人口の約0.1%)である。Pew Research Center, *The Future of the Global Muslim Population Projections for 2010-2030*, January 27, 2011。因みに、同レポートによる2030年の滞日ムスリム人口推計は、17万1千と若干減少している。また、同センターが2015年に発表した*The Future of World Religions: Population Growth Projections, 2010-2050*, April 2, 2015によれば、2010年は、20万、2050年は、31万である。なお、2017年には、*World Muslim Population by Country: Interactive Data Table1* (Nov.17, 2017)が発表されており、同表には、日本のムスリム人口として、183,000 (2009年) が掲載されている。
- 12 店田廣文「日本人ムスリムとは誰のことか」(前掲)。
- 13 Pew Research Center, *The Future of World Religions: Population Growth Projections, 2010-2050, Why Muslims Are Rising Fastest and the Unaffiliated Are Shrinking as a Share of the World's Population* (April 2, 2015).
- 14 店田廣文『日本のモスク』(前掲)。
- 15 脚注11. に記載した2015年の報告書による日本のムスリム人口推計結果は、以下の通りである。<http://www.pewforum.org/2015/04/02/religious-projection-table/2050/number/all/> (2019年4月6日参照)。各年の滞日ムスリム人口推計は、20万(2010年)、20万(2020年)、24万(2030年)、27万(2040年)、31万(2050年)である。全人口に対する比率は、2010~2040年までは0.2%、2050年は0.3%である。